

能登棚田米通信 Vol.17 H28.5.13

◎ 「能登棚田米」トピックス

- (1) 平成28年産の能登棚田米は2市2町の35集落、79名の生産者で約77ヘクタール作付け予定です。27年産から、約11ヘクタールの増となります。
- (2) 生産者部会研修会が3月9日に奥能登行政センターで開催されました。参加者は収量安定化に向けた対策と特別栽培米生産に理解を深めました。
- (3) 1回目の棚田保全活動が5月29日に輪島市町野町寺山地区において行われる予定です。当日は、学生ボランティア団体「能登ラボ」のメンバーと集落の方々とイノシシ被害防止のため、電気柵の設置作業を予定しております。(調整中)



寺山集落での電気柵設置 (H27)

◎ 「全国棚田〔千枚田〕サミット」の開催について

全国棚田〔千枚田〕サミットが佐渡で開催されます。全国の棚田生産者の取組みを学んでみませんか。

日 時 平成28年7月14日(木)～7月16日(土) 2泊3日

内 容 基調講演、棚田現地視察他 (※切：平成28年5月27日(金))
旅程の詳細(視察先、宿泊先等)は調整中ですが、旅程(案)、参加申込書を添付しますので、ご希望の方は最寄りのJA事務局までお申込み下さい。

◎ 栽培管理・技術情報

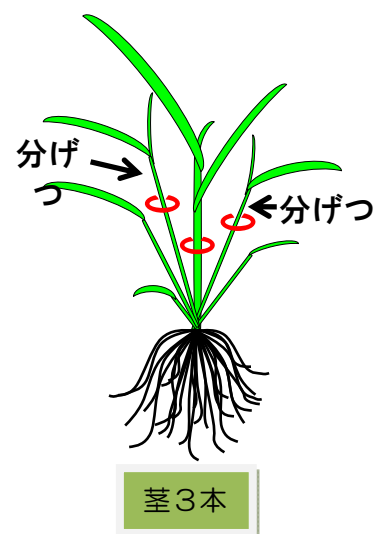
- (1) 田植え後5日間程度は、3～5cmに湛水し、低温や風、乾燥による植傷みを回避し、活着を促進しましょう。
- (2) 活着後は、2cm程度の浅水管理に切り替え、地温と水温の上昇に努め、分けつの発生を促進しましょう。
- (3) **移植から1ヶ月を目安に中干しを開始してください**
(例：5月10日移植→6月10日頃中干し開始)。
- (4) 水田内の1本苗が分けつを2本出していれば中干し開始です(図参照)。株あたり、苗を4～5本で移植したほ場では、**約12～15本/株の莖数となり、中干しの開始時期**になります。

★なぜ中干しが必要？

- ・無駄な分けつの発生を抑制し、籾数過剰を防ぐことで未熟粒や乳白粒の発生を軽減します。
- ・根に酸素を供給し、根の生育を促すことで、登熟期の養分吸を活発にします。

- (5) **6月中旬にはPKけいさん(40kg/10a)を必ず施用してください。**

- (6) 除草対策でやむを得ず、ヒエクリーン1キロ粒剤、バサグラン粒剤を散布した方はカメムシの防除に注意が必要になりますので留意ください。



ご不明な点、ご心配な点がございましたら、お近くのJAまたは、奥能登農林総合事務所(0768-26-2323)までお問い合わせください。